

### 1 単元によせる授業者の思い

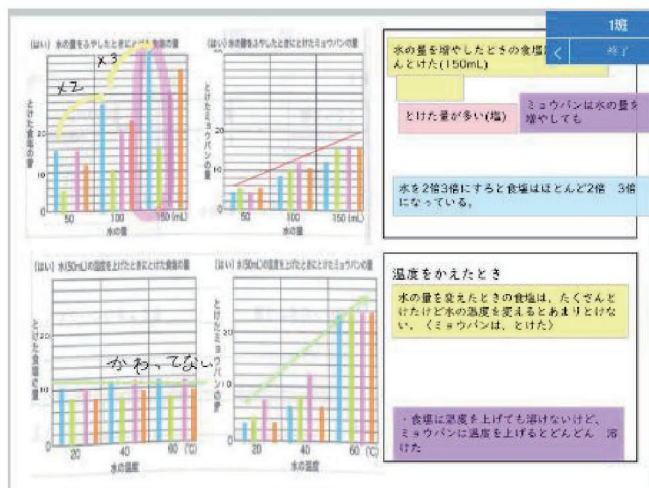
5学年の児童は素直で意欲的に学習に取り組むことができている。また、実験結果をもとに、ノートに自分の考えをまとめる力がついてきている。さらに、考えをノートに書き表すだけに留まらず、それを友達と共有したり、全体で発表したりできる力を高めていきたい。本単元では、全体での結果の確認の時間の後に、個人の考察の時間をあえて配置した。事実の確認を基に、自分の考えをもたせることで、自信をもって全体での交流の時間へと進んでいく。スモールステップを踏み、全児童が自分の考えをみんなの前で発表できる機会を継続して設けていけば、発表への抵抗も次第に減っていくと考える。「自信をもって発表をできた。」という成功体験の蓄積を自発的に考えを伝え合える児童の育成につなげたい。



### 視点II

### 子どもが学びに没頭する話し合いの工夫

- ① 互いの考えを可視化できるワークシートを活用することで、自分の考えをさらに広げたり深めたりできるようにした。



< 結果を書き込めるタブレットのグループシート >

### 2 授業の実際

#### 視点I

#### 見方・考え方を働かせながら積極的に学びに向かう指導の工夫

実験前後での予想と結果との乖離に着目し、本時に理解したいポイントを明確にすることで、意欲を高めることができるようにした。



- ② タブレットのワークシートに、気付いたことを付箋機能で集約しながら話し合いを進めることができるようにした。



- ③ ノートに自分の考えを書き込むことで、全体での話し合いに自信をもてるようにした。



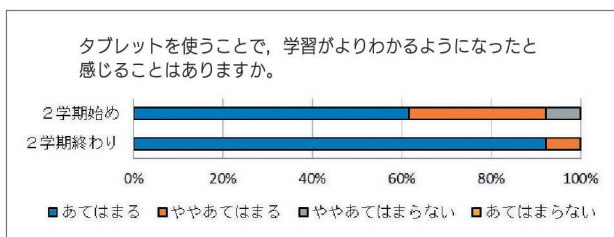
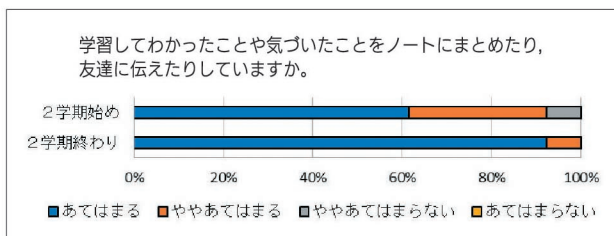
### 視点Ⅲ

#### 振り返りの時間の確保と観点の提示の工夫

振り返りの視点を提示し、次時につながる考えを全体に広められるようにした。

- T: では、振り返りを書きましょう。**なに**を学んだか。**した**、できた、分かった。**とも**だちのよいところ。**も**っと知りたいこと。の中から書いてください。
- C: 今日は、温度を上げたり、水の量を増やしたりすることで、さらに物をとらせることを確認できました。また、Aさんの発表で考えがまとまりました。

### 3 子どもの変容



#### 〈考察〉

- ・ ノートに考えを書き込む時間を確保することで、分かったことや気づいたことをノートにまとめたり、友だちに伝えたりする意識の高まりが見られた。
- ・ タブレットの共有ソフトを日常的に使うことで、学習がより分かるようになったと感じる児童が増えた。ノートとタブレットの使い分けが、教師も児童もできるようになってきた。

## 4 研究のまとめ（○成果●課題）

### 【視点Ⅰ】

- 前時の振り返りから本時に入ることで、全児童が見通しをもって授業に臨むことができた。
- 予想と異なる結果に対する「なぜだろう」という疑問が課題探究の意欲を高め、新たな予想とそれを調べる方法を考えるなどの深い学びにつながった。
- めあてまでの発問を精選し、よりスピーディーに導入が展開できるとよかった。

### 【視点Ⅱ】

- 共有ソフトを活用し、ワークシートにまとめを書き込めるようにした。互いの思考を可視化できて有効であった。
- グループ→個→全体という順番は、自分の考えに自信をもてない児童には効果的であった。
- 科学的に探究する方法を身に付けるために、まとめ（事実の確認）と考察（まとめを基にした自分の考え）を区別した話し合いができるようにしたい。

### 【視点Ⅲ】

- 振り返りの時間を継続することで、児童の自己の学びの状況を見つめる力が高まった。
- 振り返りを活用した結果、次時への意欲付けがスムーズにできるようになった。
- 発達段階に合った内容を意識させることで、より充実した振り返りができるようになると考える。また、教科にあった見方・考え方を振り返りの時間を使って育てていきたい。

実際の指導案はこちらへ▶

